

## 昭和 61 年度第 4 回評議会速報

日 時 昭和 61 年 4 月 17 日 (木) 18 時 45 分～21 時 35 分  
場 所 本館第 1 会議室  
出席者 議長 浜田会長  
委員 14 名  
幹事 3 名 (特別出席 2 名)  
欠席者 委員 3 名  
幹事 1 名  
欠 員 名古屋校舎学監

## 議 事

## I 審議事項

1. 内部委員の選任について  
略
2. 中日大辞典 (改訂版) 刊行に関して
  - ① 5,000 部を追加印刷することにした。
  - ② 贈呈式を次のとおり行う。

日 時 5 月 31 日 (土) 14 時～  
場 所 名古屋都ホテル  
経 費 概算 100 万円  
主 催 愛知大学  
後 援 同窓会
3. 将来計画について  
次回継続審議。

## 出版記念会と中国への辞典贈呈式

―名古屋で盛大に―

五月三十一日名古屋都ホテルにおいて、各界著名人、同窓生および愛知県内各大学への中国留学生など約三百人が集って、愛知大学中日大辞典増訂版出版記念会と中国国家教育委員会への中日大辞典贈呈式が盛大に行われた。

式典は、浜田学長の挨拶にはじまり今泉編集委員長の編集経過が紹介され、文部大臣（代読）、愛知県知事（代読）、平岩名古屋市助役（本学二十八年卒）等の祝辞が述べられ、さらに中国の南開大学をはじめ提携校からの祝電が披露された。

続いて、中国国家教育委員会を代理して、駐日中国大使館陳彬教育担当参事官に千冊の目録が浜田学長から贈られた。これにこたえて陳参事官より「中日大辞典は、新しい資料とともに語彙は豊富で解釈も正確であり、中国での評価も極めて高い、これを機にさらに中日両国の友好の輪が広がり、学術文化交流の懸け橋となり、船となって欲しい」と強調され万雷の拍手を浴びた。

ここで式典は終了し、記念講演会に移りNHK解説委員で元北京支局長の小林一夫氏（本学旧法二十五年卒）が「現代中国への視点」と題して講演された。

最後に出版記念祝賀会に入り、この辞典の生みの親ともいふべき故鈴木拓郎教授未亡人しず江殿、さらに当初から辞典編纂に深い理解と情熱を傾けてこられた本学名誉学長本間喜一氏代理令嬢殿岡晟子殿、また地味にコツコツと二年余にわたり編纂に協力された故黄志明北京農業機械化学院教授のご令弟林誠（黄異）教授、中日大辞典編纂委員長今泉潤太郎教授にそれぞれ永年にわたる編集事業を労う花束が贈られた。また名古屋国際センター理事長本山政雄氏をはじめ多くの来賓、同窓生の皆さんから祝辞が述べられ、中国歌舞団“華音”の演奏が花を添えた。

なお、これより先の五月二十一日中国大使館において折から来日中の中国国家教育委員会何東昌副主任に浜田学長より、中日大辞典贈呈の申し入れを行った。何副主任は「有難く頂戴し、国内各関係方面に配布し有効に利用したい」と感謝の意を表明された。

〔注〕愛知大学通信第五十五号 昭和六十一年六月二〇日所載

## 増訂版刊行について

中日大辞典改訂編集委員長  
今泉潤太郎

中日大辞典は、一九六八年二月発行以来、八三年の第八刷まで七万余を印刷、唯一の本格的な中日辞典として、幸い国内外より一定の評価を受けるに至った。

この間、中国においては一九六七年から十年に及ぶ文化大革命を経、各方面での変化著しいものがあり、七三年六月我々辞典編集関係者の訪中時、南開大学、北京大学、復旦大学で行った座談会では、これを特に実感した。七二年の日中国交正常化に伴う両国関係の発展には、近年著しいものがあり、また現代化をめざす現在の中国の情勢に適應する辞典とすべく、一九七五年四月、本学は中日大辞典改訂編集委員会（編集主任鈴木沢郎、編集委員長今泉潤太郎）を発足させた。

今回は、あくまで現行の枠組内での全面的増改訂であるため、辞典の基本的性格や編集原則の変更はなく、誤りを正し至らざるを補うことを旨とした。結果、本文は旧版に比し約六百頁増、付録、索引を含め総頁数二千八百頁、所載見出字（簡化字、繁体字、異体字を含む）は、二千字増え一万三千二百字、見出語は増加分約三万語を含め、十四万語となった。

一九八二年初、鈴木先生が急逝された。先生の発意で始まり、情熱で進められた増改訂であり、余人をもつては替え難いが、辞典本文の大部分に一応の目を通されていたことは不幸中の幸いであった。

中日大辞典について、「それは実に日中両国人の心血がそそがれていた」と言われたのは、初版刊行時、推薦文をよせられた故倉石武四郎氏であったが、今回の増改訂も黄異先生をはじめ多数の中国人教員の協力なしには完成し得なかつたであろう。特に、北京農業機械化学院黄志明教授は二年間にわたり編集に協力されたのち帰国、まもなく病歿された。ともに大痛恨事である。

校正などには、本学学生や卒業生諸君の熱心にして真摯な協力があつた。本学中国語関係教職員・学生が一体となつて取り組んだ増改訂事業と言つて過言でない。

今回は旧版刊行の際の如き経費面での苦勞はほとんどなかつた。これは中日大辞典に対する評価がすでに確立しているため財政上の目処がたつていゝること、本間学長以来、歴代の学長をはじめとする当局者の理解と援助があつたことと承知している。

中日大辞典増訂版の発行は全面的に大修館書店にゆだねることとした。同社の「大漢和辞典」はつとに有名であり、中日大辞典についてもこれと同様に力を入れてくれているので、誠に力強い。今後は、各地の読者に対して購入についての不便をかけることはあるまい。

なお、中日大辞典初版の刊行について最初から尽力された燎原書店に対しここに謝意

8-2 b(3)

を表する。

中日大辞典増訂版が従来にも増して各方面で活用され、日中文化交流の発展にいささかなりとも貢献することができれば幸いこれにすぎるものはない。

〔注〕愛知大学通信第五号（昭和六一年六月二〇日） 所載。

## 陳彬中国大使館教育参事官からの謝辞

尊敬する浜田稔学長。尊敬する御来賓、御在席の皆様。

今日、私は光栄にも、中華人民共和国中日特命全権大使章曙に代わり、この盛大で荘厳な、『中日大辞典』増訂版出版記念会ならびに中国国家教育委員会に対する『中日大辞典』贈呈式に出席できませんことを、非常にうれしく思っております。

まず、私は、章曙大使に代わり、『中日大辞典』増訂版の出版を心よりお祝い申し上げます。同時にまた、愛知大学が中国国家教育委員会に『中日大辞典』を一千冊贈呈して下さったことに対し、中国駐日大使館と中国国家教育委員長を代表して、心よりお礼申し上げます。

『中日大辞典』の出版は、愛知大学の関係部門の先生方が長期にわたって努力してこられた結果であり、愛知大学が中日友好に力を尽くしてきた結晶でもあります。今回の増訂版は、学術的価値からいうと、内容は豊富、資料は清新、注釈は精確で、中日両国の言語を学習・研究する上でのすぐれた辞書です。辞書の活用範囲と影響力は、その他の専門書よりも、いっそう広く深いものです。同時に、『中日大辞典』の価値と意義は、学術面のみにとどまらず、さらに、中日友好と文化交流の橋であり船であると、私は思います。皆様御承知のように、我々中日両国は、一衣帯水の隣国で、二千年にわたる友好往來の歴史をもっております。

国が異なれば言語も異なりますから、友好往來と文化交流の面においては、言語の道具である辞書を欠くことができません。これはちょうど、川や海を渡るのに橋や船（もちろん、現在では飛行機も）にたよらなければならないのと同じように重要なことでもあります。したがって、次のような比喻を用いることができます。『中日大辞典』は中日友好の橋であり、中日文化交流の船であると。『中日大辞典』の出版は、必ずや中日両国人民の友好と文化交流をよりいっそうおしすすめることでしょう。

最後に、中日両国の文化と教育の交流が日に日に発展し、中日両国人民が世々代々にわたって友好関係を維持していくことを、心よりお祈り申し上げます。

一九八六年五月三十一日

〔注〕愛知大学通信第五五号（昭和六一年六月二〇日）所載。